

# 200号は市の歴史そのもの 16年の市政の縮図

広報なんこくは、この八月一日号で二百号をむかえた。昭和三十四年十月、南園市が生ぶ声をあげてから十六年の歳月が流れようとしている。

広報二百号は、この歴史そのものの鏡であり、市政の縮図である。広報・広聴が地方自治体の大きな事業にまで発展してきた今日の頃、この歴史をひもときながら明日への飛躍に結びつけていきたいものだ。

## 創刊は三十四年十月

### 市民の声の花盛り

花子・二百号記念おめでとう。  
ボチ・二百号といえは大変なものだ。  
太郎・二百号は「南園市の歴史そのもの」といったところだね。  
花子・昭和三十四年十月に南園市が誕生して十六年になろうとしているわね。  
太郎・誕生した十月二十日付で創刊号が発行されたんだ。  
ボチ・すぐやらない市役所にしては随分早いことだ……。  
太郎・いつものことながら意地が悪いな。

南園市は香長村・後免町といっただ段階をへて合併したんだよね。実際は香美郡と長岡郡の十五カ町村が一語になった。  
花子・旧町村の時代から広報活動は大変盛んだったようね。  
太郎・戦後間もなく広報委員会というのがつけられてね。いまだ「市民参加」の広報紙づくりがすすめられていた。  
花子・旧町村というのは人口規模も小さく家族的だったんでしょね。  
太郎・むかしはガリ版刷りだった。

た。それが活版印刷になり、写真植字によるオフセット印刷にかわってきた。カラー写真を入れたり紙の質も良くなったものだね。

三十六年から

### 市民の編集に

花子・市になってからも広報委員会があったの。  
太郎・創刊号のころは市役所が編集・発行してたんだ。それも旧町村で広報を担当したところのある職員と高知新聞後免支局長をしてきた三谷さんなど有志が集って第一号を発行した。  
花子・今のようにならぬ市民が直接広報紙の編集・発行にたずさわることになったのは……。  
太郎・そうだね。三十五年二月に「広報委員会規則」というのがつくられた。そして、実際に市民が編集に参加するようになって最初のものは第十九号（三十六年五月号）ということになっているね。  
ボチ・そのころの広報紙をみると「市民の声」というのが随分多い。

### 広報紙は

#### 夜つくれる

ボチ・なにしろ二百号というから、いろいろなことがあったんだろうな。  
太郎・三十五年十月号では「広報広告」の募集をしている。赤字の持ち寄りであえていたので苦肉の策か……。「市内各戸に必ず配達されますから効果はかなりの大きいと考えられます」とPRのほうも胸にいっている。四ツ×七ツ

## きょうの話題 あすの話題

角ぐらいの大きさを二三百円の広告料だったそうだよ。  
花子・現在では珍しいことではないよ。  
太郎・そうだね。でも、最近になって須崎市が広告をとるようになったそうだよ。  
ボチ・担当者や広報委員の苦労も並大抵のものじゃなかったじゃないかな。  
太郎・三十五年から十年間、事務局で取材を担当していた現農林園芸課長補佐の東村さんによると

## 四十八年から月一回発行

### 市政のわかりやすい公開

「総務課から市民課に異動になったとき、広報事務の「やり手」がなくて、昼間は市民課の仕事、夜は広報の仕事。徹夜になることもたびたびありました」とのこと。  
ボチ・広報は夜つくれる。  
太郎・苦勞ばかり多くて……と

花子・現在の広報委員さんでもその当時から苦勞された人もいますよ。  
太郎・委員長をしている山本先生は日本広報協会の高知県支部長でもある。後免町で産婦人科を開業しているけど「医者もやってます」という状態で、本業より広報の方に専念するのが多い。などと冗談も飛び出す出来。それに、ロケットさんこと藤本茂樹さん。このコンビは、もう十五年になろうとしているね。

### 十六年の歴史を

#### 今後の糧に

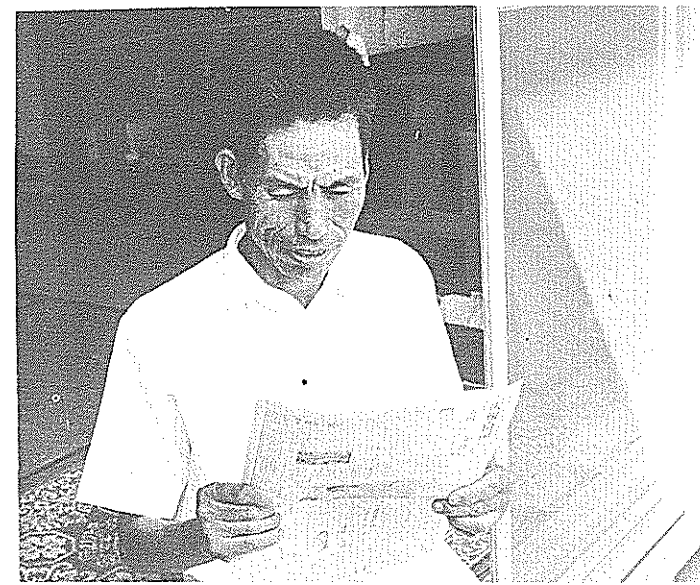
花子・そういう意味からも広報は大変な役割りを果たしているわけね。  
太郎・広報紙を、市民みんなでつくるあしたの南園市づくりの広場に、民主主義を实践していく場にしてほしいものだね。

### 市民参加の

#### 市政への布石

ボチ・広報紙は四十八年四月から、県下で初めての月一回発行になったんだね。

太郎・市民と市長の対話集会、市長への手紙、市政アンケート、市政モニター、それに体制は十分



# ●広報なんこく200号記念特集



## アンケートのあらまし

**■調査のねらい**  
 聴く市政・話す市政そして、それに応える市政。をすすめるため「市長への手紙」「市民と市長の対話集会」「市民相談室の設置」など広報活動をすすめています。市民対話・市民参加の市政をすすめていくためには、何よりも市民自身が考え、意見を述べるための資料や情報を公開することが大切になる。

そこで「広報なんこく」が、いかに読まれているか、また、何を望んでいるかを知ることによってよりよい広報行政をすすめるようとするもの。

**■調査の方法**  
 市立の小学校六年生の父兄を対象（ただし、六年生の少ない学校については、その他の学年生も含める）に、児童にアンケート用紙を渡し回収した。  
 対象数は六年生五百三十五人、その他二十二人のあわせて五百五十七人。  
 小学六年生を選んだのは、核家

族化がすすんだとはいいながら、六年生の兄弟、姉妹と父母・祖父母の三代揃った一般的な家庭であらうとして対象にしたもの。

**■結果のあらまし**  
 回収された調査票は三百九十枚で、回収率七〇・〇％。回収率のよかったのは白木谷小、黒滝小の一〇〇％、岡野小の九〇・一％、久礼田小八三・六％の順。男百十八件（三〇・三％）、女二百四十四件（五七・五％）不明二十八件（七・二％）、職業別では農林水産業八十七件（二二・三％）、商業十六件（四・一％）、製造業六件（一・五％）、勤労者百八件（二七・七％）、主婦百九件（二七・九％）その他不明六十四件（一六・五％）。  
 なお、校別になっているので日章小（日章岩村地区）大湊小（浜地区）後免野田小（後免・野田・長岡の一部の地区）久礼田小（久礼田・巖岩・国府地区）国府小（国府地区の五年生の父兄が対象）上倉（奈路小・白木谷小・黒滝小の児童の父兄が対象）

# 広報は参考になる65%

すみずみまでくわしく読む38%

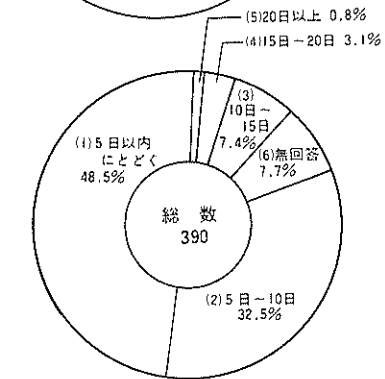
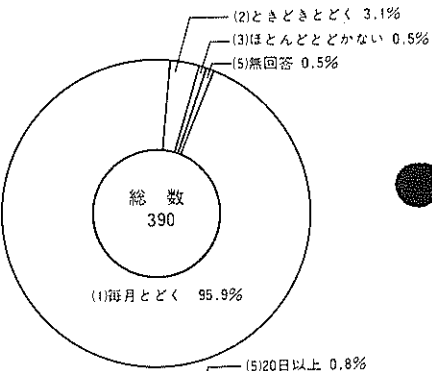
「広報なんこく」は、昭和三十四年十月南国市の発足とともに生ぶ声をあげ、この八月一日号でちょうど二百号になる。そこで、二百号を機会に広く市民のきいたくない意見や提言を聞いて、新しい広報紙への脱皮しようとするアンケート調査をした。

広報なんこくは市政や市の行事を知るうえで参考になる六五・九％、すみずみまでくわしく読む三八・二％、毎号として保存している二・八％などの結果が出ており、一番読まれているのは市民の声、これからとりあげてほしいものは市内の話題、催しや行事などというものだ。

毎月とどく 95・9%  
 問1 あなたの二家庭に「広報なんこく」は  
 (1)毎月とどく 95・9  
 (2)ときどきとどく 3・1  
 (3)ほとんどとどかない 0・5  
 (4)発行していることを知らない 0・0

0・5  
 問2 広報なんこくは、毎月一日と十五日の二回発行していますがあなたの二家庭にどのくらい  
 (1)発行日から五日以内 48・5  
 (2)五日～十日以内 32・5  
 (3)十日～十五日以内 7・4  
 (4)十五日～二十日以内 3・1  
 (5)二十日以上 0・8  
 (6)無回答 7・7  
 A・「広報なんこく」が市民の

0・5  
 家庭に毎月とどくのが全体の九五・九％で、市内全戸にもれなくいきとどいているといえるね。  
 B・しかも、発行の日（一日と十五日）からみて、五日以内にとどくが全体の半分にあたる四八・五％、十日以内を含めると八一・三％にもなる。  
 C・この数字はかなり高いもので注目してよいね。地区別では後免野田が回答のあった三十六件の



うち五日以内にとどくが二十四件十日以内九戸で群を抜いて早くにとどいているようだ。以下、三和、長岡、稲生の校区の順になっているね。

### 五日以内にとどく 全体の半分

D・ただ、数字的には少ないがときどきとどく、ほとんどとどかないが三・六％（十四件）あるんだ。地区別でみると大篠、長岡、上倉でそれぞれ三件あって、今後はこの原因などについて検討する必要があるな。  
 E・発行日から十日以上かかっているものを見てみると一一・三％となっている。

C・「発行したら、すぐ家庭にとどくようにしてもらいたい。」（33歳・主婦）  
 B・このアンケートからみるかぎりでは、ますますといったところじゃないかな。連絡員からの苦情なども耳にするね。  
 D・うん、このアンケートのなかでも「連絡員を無理にさせられ毎月二回を一年間配った。少しおくれると市民カレンダーが間に合わぬとひどくおこられた。忙しい中を無料奉仕で婦人部のため協力しても、おこられて合わぬと腹が立った。手数料は全て婦人部へ入り、実際に例らいた人には一銭も入らないことを知っているか。これは地区によってやり方がちがうかもしれないが、遅配といっておこられては別に合わない。（39歳 商業）」というのがあった。

**A**・手数料の取り扱いについては、それぞれの地区で話し合われた方法でやっているようだね。そのお金を部落公民館の活動費にあたり、婦人部の費用にするなど輪番でやっているところは多いようだね。

**B**・月番や部落、婦人部のいろいろな用事を連絡員が兼務する仕組みになっているところもあって「連絡員は忙しい」と、よくいわれるね。

**D**・市長への手紙でも「非常勤特別職として条例で地区長の設置」の「手当の増額」を望む声が二件あった。

**E**・これに対して市は「地区連絡員は地区(部落単位)で推せんしてもらった人に市長がお願いし、月一回市からの文書の配付などを頼んでいます。市からの文書も各課バラバラにお願いして、大変ご迷惑をかけてきました。そこで四十八年四月から広報なんこくを月一回発行することによって文書配付の統一に努めています。手数料は条例により非常勤の委員として一世帯につき年間二百円を出しています。この額は四十七年百三十円、四十八年百五十円であつた。

たものを四十九年四月から二百円にしたものです。現状の二百円では安いという声もありますが、財政事情などもあってご無理をお願いしています。区長制はコミュニティの育成や自主的な町内会、部落会の育成ともあわせて市民とともに研究していきたいと思っております。

**C**・いずれにしろ大変ご苦労な仕事で、広報にたずさわるとしても頭が下るね。今後ともよろしくお願いしたい。

## 市政や市の行事 80%が広報で

### 人に聞くなど、わずか8%

問3 あなたやあなたのご家族は、市政や市の行事などを何で知りますか。

(1) 広報なんこく	80.5
(2) 回覧板	38.7
(3) 有線放送	4.9
(4) 人から聞く	7.7
(5) 対話集会や説明会	2.6
(6) 直接市役所に行く	0.8
(7) 一般新聞やテレビ・ラジオ	22.6
(8) その他	0.3

問4 「広報なんこく」は市政や市の動きを知る上に――。

(1) 参考になると思う	65.9
(2) 少し参考になると思う	26.4
(3) あまり参考にならない	5.4
(4) 無回答	2.3

問5 あなたやあなたのご家族は「広報なんこく」を――。

(1) すみずみまでくわしく読む	38.2
(2) ざっと読む	55.1
(3) 見出しだけ読む	3.3
(4) ほとんど読まない	1.8
(5) 無回答	1.6

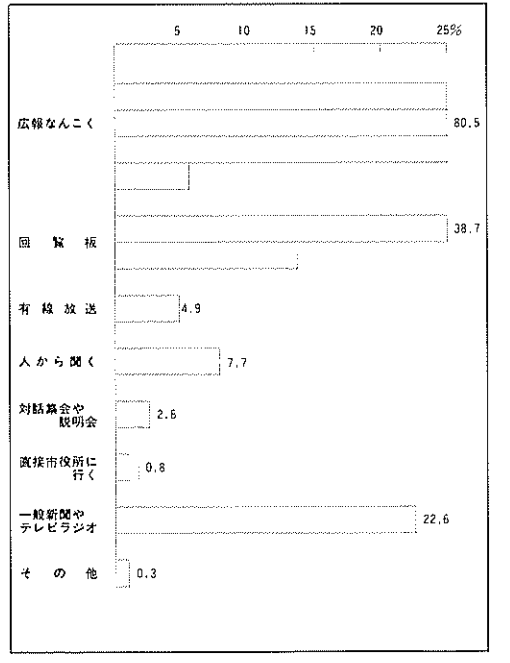
問6 あなたのご家庭で「広報なんこく」をよく読む人は誰ですか。( )の中に順番をつけてください。

二〇歳未満の男女	1.7
二〇歳～三九歳の男女	2.1
四〇歳～四九歳の男女	1.6
五〇歳～五九歳の男女	4.3
六〇歳以上の男女	9.9
二〇歳未満の男性	22.5
二〇歳～三九歳の男性	14.4
四〇歳～四九歳の男性	24.7
五〇歳以上の男性	24.7

**A**・中央紙は県内記事は少ないけど、地元新聞はかなり市政の報道もしている。乳幼児の検診の日などは地方欄の、町から村からにとりあげてくれているのでね。少し意外な数字だといえるね。

**E**・有線放送で聞くという傾向も少なくなつたし、市もあまり活用していないのではないかな。

**C**・人から聞く・対話集会や説明会



明会・直接市役所に行く――の三つをあわせてもわずか一一・一〇％から聞くなどの八割。このことはこれからの行政をすすめていくうえで十分考えていかなければならない問題だ。

**B**・地区別・職業別でもほとんど同じような率になっている。

**D**・八〇％までが広報なんこくで市政や市の行事を知っています。参考になると答えたのは六五割。少し参考になるをあわせると九二割といったところだ。

が多い。職業別では件数は少ないが率としては商業八七割、製造業八三割が多い。

その反面、あまり参考にならないは大塚一〇割、前浜一〇割、商業二二割、勤労者七割。

**E**・すみずみまでくわしく読むは長岡五三割、上倉五〇割が多く岩村二七割、岡田二〇割が少ない。岩村はほとんど読まないが八割もあり注目される。見出しだけ見るでは十市一五割、上倉八割も目立

つて多い。

職業別では、勤労者がくわしく読む四一割で平均三八割より高いが、その反面、見出しだけ・ほとんど読まないが五割、農業でも六割ある。

「家庭の主婦にとって広報は唯一の市政や市内のできごとを知る手段だ。紙質をおとしても良いのもつと頁数を増して、くわしく広く記事のせてほしい。(39歳・主婦)」

「広報のこのころになると早くこないかと待ちかねている。市民カレンダーも大変役立つ。今後ともはりきって頑張してほしい。(44歳・主婦)」という意見も多かった。

## 多い女性の読者

### いま一步、身近かに感じられないのはなぜ

**B**・このことは、すみずみまでくわしく読む三八割。ざっと読むをあわせて九三割という数字になつて表われているね。

**C**・地区別では参考になると答えた岡府八三割、後免野田八〇割

**C**・件数でみれば、あまり参考にならない二十一件と見出しだけ見る十三件、ほとんど読まない七件をあわせた数字が一致している。

**B**・「(行政格差があり)広報

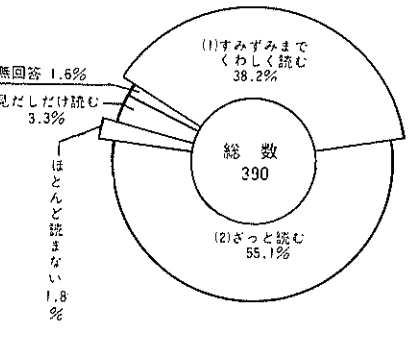
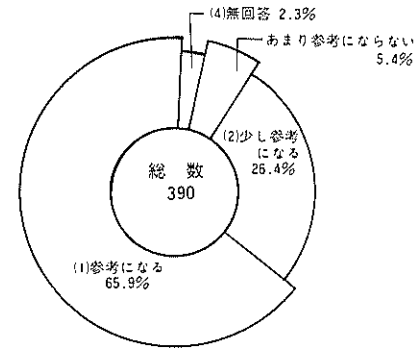
なんこくも腹立しいことばかり、行政とは太陽のごとく隔なく市全般を把握し、始めて愛着をもてる。(46歳・運転手)」「税金のムダ使いなのでやめてほしい。(40歳

の農業)」「毎月二回も発行する必要はない。特別参考になる記事ものっていないし、他に読むものはいろいろある。(45歳・会社員)」という意見があった。

**E**・税金のムダ使いとはきびしい指摘だね。

**B**・その反面、「広報は必ず読んでいい。取材や編集の方たちありがとう。(39歳・主婦)」

「毎月二回の広報を楽しみにしている。これからは続けてほしい。市内のいろいろなことも知りたいので、枚数を多くするが、月三回ぐらいにしてほしい。(37歳・主婦)」



### 広報紙に待ちかねる

**B**・その反面、「広報は必ず読んでいい。取材や編集の方たちありがとう。(39歳・主婦)」

「毎月二回の広報を楽しみにしている。これからは続けてほしい。市内のいろいろなことも知りたいので、枚数を多くするが、月三回ぐらいにしてほしい。(37歳・主婦)」

「家庭の主婦にとって広報は唯一の市政や市内のできごとを知る手段だ。紙質をおとしても良いのもつと頁数を増して、くわしく広く記事のせてほしい。(39歳・主婦)」

「広報のこのころになると早くこないかと待ちかねている。市民カレンダーも大変役立つ。今後ともはりきって頑張してほしい。(44歳・主婦)」という意見も多かった。

私はこう考える



市民対話のテキスト

広報……それは空のように広く、深く、底知れない無気味なものであるといえます。空の青さの根源を求め、ただよい、まさぐってきたよき時代のこともなつかしいものの一つであります。

市民の声なき声を求め、それを行政に生かすせんだちとして、日々に進みゆく行政の姿を住民とともに見つめ、市民対話のテキストとして活用され、問題提起の場となり、市民の心の糧として市民一人ひとりの身近にあって、再び市民の声となって市政へ反応してゆく、そのような広報であり、広聴の場であってほしいものです。

明るい話題、それは小さなことであっても、人の心をなごませるそのような善意や、心づかいのある記事は、世知辛いといわれる世情に一滴の清涼剤として、さくばくとした人の心へほのぼのとしたあたたかい心をよみがえらしてくれるものです。

埋れてゆくであろう小さな美しい善意の花を市民とともに見出し出してほしいものです。

空の青さの根源を求め、大きく飛躍してゆく広報 市民と市政を結ぶ対話の広報作りに、限りなき愛情をそそぐ広報マンに心から万歳を送り、その労苦に感謝いたします。

東村達夫  
(立田)

がないのかな。

C・このアンケートの対象が小学六年生の父兄なので、三十五歳〜四十五歳の父兄が中心になって回答したのではないかな。小学六年生の兄弟・姉妹ではヤングといっても小中学生だと思っね。

A・まず見られる広報づくりが大切だね。見る「読む」納得する「行動する」。読んでもらっても納得し、理解して行動に表わしてもらわなければ何んにもならない。

B・「毎月読んでいてあきのこない、広報の来るのが待ちかねるような広報にしてほしい。(34歳、農業)」

C・「毎号決ったレバートリーなので、もう少し広い感じで記事のせてほしい。町で村で拾った声とか。広報がもう一歩というところで身近かに感じられない。な

ぜでしようか。(伊達野)」とい

A・「いま一歩身近かに感じら

れない、なぜでしようか。問13・14ともあわせて考えなければならん言葉だね。

取材や参加希望22%

上倉地区は41%

問7 「広報なんこく」にあなたやあなたの家族の写真や記事名前などがのつたことがありますか。

- (1) ある 13・3
- (2) ない 84・1
- (3) わからない 0・5
- (4) 無回答 2・1

問8 「広報なんこく」に掲載された写真を希望者にさしあげて

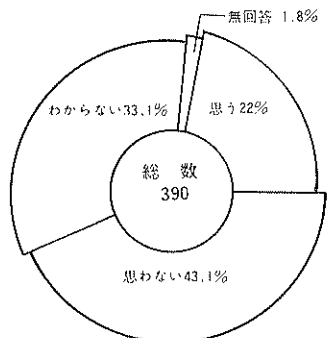
- (1) ある 13・3
- (2) ない 84・1
- (3) わからない 0・5
- (4) 無回答 2・1

問9 あなたは機会があったら「広報なんこく」の取材や編集に

- (1) 知っている 34・4
- (2) 知らない 65・1
- (3) 無回答 0・5

問10 あなたの二家庭では「広報なんこく」を

- (1) 毎号として保存している 12・8
- (2) 必要なものだけ保存している 48・0
- (3) 読むとすてる 35・1
- (4) 無回答 4・1



ある人が一三・三割五十二人の人たちが八六・七割がのつたことがない、またはわからない、無回答だ。

B・広報の編集方針は、できるだけ多くの人の写真、名前、そして意見をのせようと取り組んでいくけど、まだまだといったところだね。

E・四方三千人の顔……ということ、お知らせ版の表紙に

二・〇割というの、それなりに評価できるのではないかな。

A・そうだね。思わない四三割に比べて、わからない・無回答が三四・九割あるんだから、決めかねている面がうかがえるね。

D・参画したいと思うを地区別にみると上倉が高く四一・七割、低いのは大塚で一三・三割。職業別では農林水産業が一六・一割と参画を希望する人が少ないね。

男女別では男性二五・四割、女性二一・三割が参画を希望している。参画したい八十六人の内訳は男性三十人(三四・九割)、女性五十二人(六〇・五割)不明四人だ。

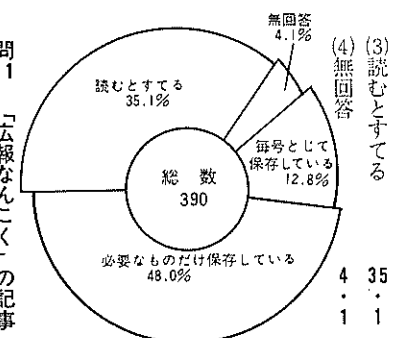
B・広報委員会には市民の中から学識経験者として五人入っているけど、一般市民にお願いして直接取材してもらったりすると、ち

がった角度で取材・編集ができて紙面のなかに「うるおい」がでてくるのではないかな。

てくれたり、写真や記事を選んでもくれる市民もほつぽつありだし、いい傾向だと思っよ。

100戸のうち60戸が保存

うち、毎号保存は12戸



問11 「広報なんこく」の記事の内容は

- (1) むずかしい 1・0
- (2) 普通 84・4
- (3) やさしい 12・6
- (4) 無回答 2・0

問12 「広報なんこく」の文章は

- (1) 読みやすい 30・2
- (2) 普通 66・4

市民とともに おめでとう

8月1日生れの人たち

市民とともに、おめでとう。八月一日で二百号になる記念として同日生れの人たちを募集していたところ三十四人(明治六人、大正七人、昭和二十一人)の市民の方たちが申し出てくれた。市民とともに歩む広報の決意も新たに八月一日生れの人たちを紹介しします。

- 【明治生れ】  
岩原芳治(白木谷) 吉井透(立田) 吉川忠子(大塚) 岩原正巳(西山) 東松寿子(浜改田) 岡崎素輪(八京)
- 【大正生れ】  
浜田覚(前浜) 石田政子(大塚)
- 【昭和生れ】  
箭野寛顕(立田) 橋田明(藤原) 楠瀬萬栄(里改田) 浜田美智(物部) 沼康平(稲生) 葛目義人(岡田) 川端駿根(東崎) 戸梶暉(稲生) 安井美智恵(廿枝) 池田和雄(下野田) 井上久子(東崎) 山中涼子(東崎) 中野喜美(大塚) 蒲原美代子(大塚) 八松千香(浜改田) 岡田真由美(里改田) 窪田洋子(後免) 末政麻子(田村) 和田隆二(堀の内) 小松宏展(比江) 浜田しのぶ(園分)

読みやすい30%

読みにくい0.8%

D・文章は読みやすい三〇％。しかし、記事の内容についてやさしいと答えたのは二一％。

B・中学校卒業程度で理解できるようにと心がけているけどね。文章はやさしくしても内容についてはなかなか頭のいたいところだ。

A・とくに行政広報ということ、週刊誌のようにかけないところもあってね。内容にしても制度

の解説、予算や財政など、なかなかやさしくかきにくいものが多いね。「官庁用語」といわれるものがある、やさしく言い換えしようとしてもできない……。C・文章が読みにくい〇・八割記事内容がむずかしい一割ということ、この点ではホッと胸をなでおろしたというのが実感だね。

D・「ゴマすり」かもしれないよ。(笑い)

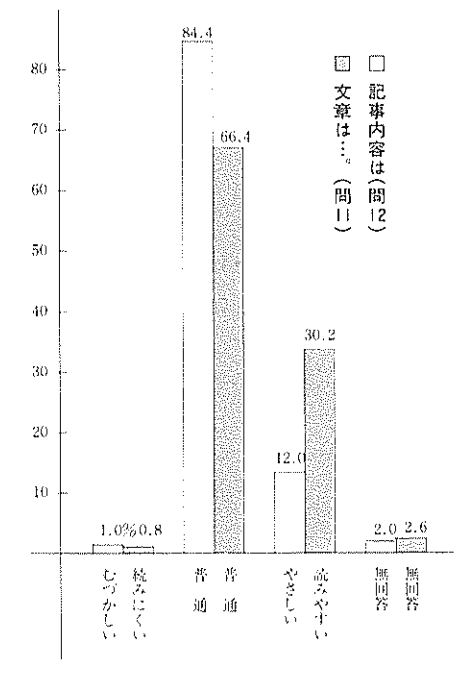
B・「誰が読んで意味がすぐわかるように書いてほしい。」そして子供の意見として「むづかしい

漢字が多いので読みにくい。」という意見もあるよ。

A・「広報編集者は辞書はいらない。辞書をひかなければわからない漢字はつかわないことだ。」(笑い)ヤングのページで低学年が対象のものは漢字をつかわないとかカナをふるなどが必要だね。

B・それもあるけど、「ことも版」というか、小中学生を対象にした広報紙をつくりたいな。

C・写真・イラストなども入れて読みやすくしたいけど、頁数が多くなり予算にもひびいてくる。



## よく読まれる ベスト・ワン 市民の声

### 次は座談会、市議会の状況

C・よく読まれるベストテンがでたね。市長の声、市民の声座談会が一位、二位をしめている。そして、これからの希望としても三位に市民参加の記事をふやしてほしいと望んでいる。

D・「市民の声など市民参加の記事を大切にしてほしい。39歳・教員」そして「市民の市政に對

する要望と回答欄をのせてほしい。(45歳・主婦)」というのがある。

E・そこで「編集者は市政側にかたよらず、市民の側の立場で記事を書くことを望む。上役の顔をみながら書いているような記事がある。(三和)」というように、市民サイドにたって書いてほしい。というのもあるね。

B・市長が編集・発行人になっておれば担当職員としては上役の顔をみて……ということがあるかもしれないけど、一般市民と市職員で構成する広報委員会で編集・発行しているの、ゴマのすりよるうがない。(笑い)

C・市長・助役は広報紙の編集発行にはノータッチだ。しかし、

行政広報としての性格もなおざりにできない面もあって行政くささは残るね。

D・三位は市議会の状況に関心がある。そして、なおくわしく知らしてほしいと希望している。

B・「各議員の日常活動を知りたい。そして、それに対して市長助役はどのような考えをもっているのか。(40歳・十市)」という声もあって、一般質問を含めた議会の公開のことだと思っけどね。

A・「議会の公開の原則」からいったら、一般質問はなんとしてものせたい。しかし、力およばず十分とりあげていないのが残念だ。

B・「市には議会報がない。以前に議会事務局へ要望したが、あ

れ以来議会記事がよく掲載されるようになった。大変いいことだ。(不明)」と、ある程度評価はされているけど、まだまだといった感じだね。

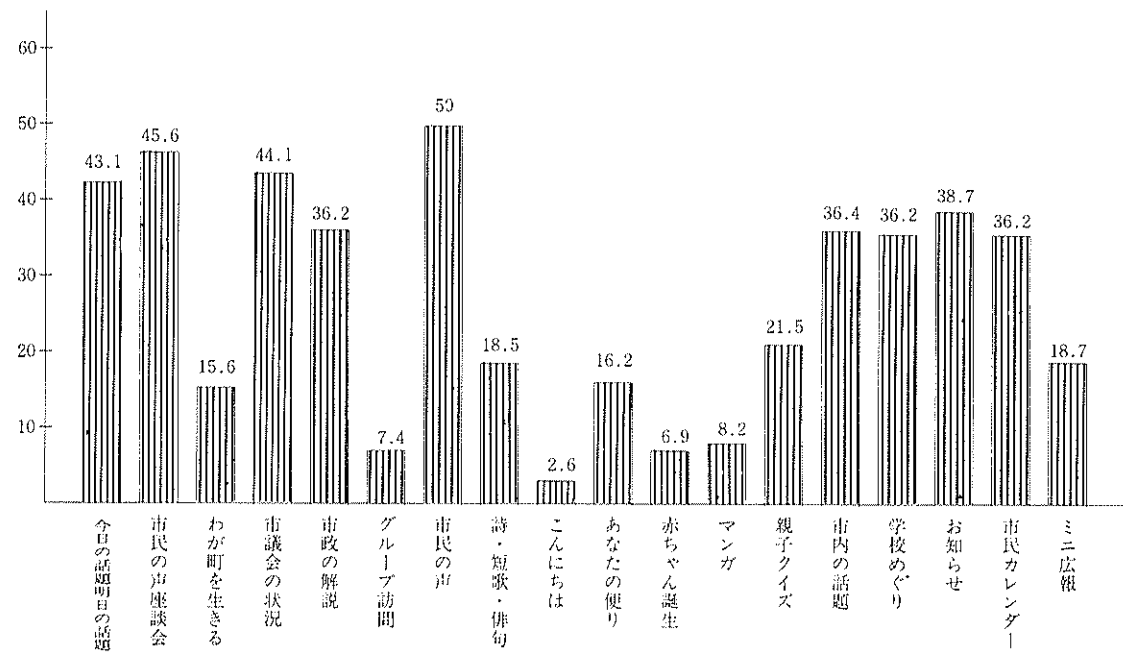
B・県下で議会報を出しているのは高崎市と須崎市のようだね。

B・町村でも広報紙を利用して一般質問をとりあげているところもあるよ。

A・全体的な傾向としては行政広報から独立した議会報を発行するようになってきているね。発行者名、所属政党まで書いて堂々とした紙面のものも多い。マサツとさせて発行者名を省略しているところもあるけど……。

### 議会報発行の展望を 当面は議会の傍聴

問13 あなたの家庭では「広報なんこく」のどの記事をよく読みますか。( )の中に五つ〇印をつけてください。(〇印のついたものをあげてみますと上の表の通りです。パーセントは一〇〇〇を越えます)



問14 「広報なんこく」の記事は、これから……。

(1)市内の話題など地域の催しや行事などをのせてほしい 36・1

(2)市議会の記事をくわしくしてほしい 26・9

(3)市民の声など市民参加の記事をふやしてほしい 22・6

(4)市の施設や制度の紹介記事をふやしてほしい 22・3

(5)市の施策を解説した記事をふやしてほしい 21・5

(6)その他 1・3

(7)無回答 12・3

B・市広報広聴企画委員会が昨年答申したところによると「議会広報は政策形成過程、審議過程を広報、行政広報は政策実施過程を広報するものだ。市民の知る権利に應えるためには市民に知らず義務があるのは当然。議員、職員、市民で市議会広報編集委員会をつくり、議会広報を発行する展望をもつべきだ」としているね。

B・議会報のするまでは、広報なんこくでも積極的にとりあげていきたいし、市民の方も本会議や委員会の傍聴にきてほしいね。

A・本会議の傍聴は誰でも簡単にできる。委員会は一応委員長の許可ということになっているけど、許可されないということはないと思うので気軽に傍聴されることをすすめたいね。

D・これからとりあげてほしい記事の第一位は市内の話題など地域の催しや行事。

E・「足でかく広報」を方針にかかげながら、発行日におわれて机でかく広報」になってしまっね。(笑い)

A・毎回反省していることで、気持は十分ある。(笑い)

E・毎月二、三日は自転車にのってフラッと市内をまわってみては……。面白い場面や意見に接することができると思うよ。

C・「赤ちゃん誕生」の取材なんかは面白いね。泣かれてなかなか写真がとれなかったり、スヤスヤ寝ているのを起して取ったり……。この間は「遠方からわざわざきてくれるのも大変だから」と、寝ているのを起してくれた。

D・赤ちゃんにとっては大きな迷惑だよ。でも、そんな取材のなかで市民と肌ふれる会話ができていくのは大切なことだね。

### 市民との ふれあいを大切に

A・インタビューにしても、文章の一つ一つにしても、ちよつとした心使いというか、市民とのふれあいを大切にしていきたいね。やっぱり、小さいことでも紙面にあらわれてくるんじゃないかな。

C・話はちよつとちがうけど、「ミニ広報」これが意外と見られているんだね。紙面の余白だからといって「手抜き」できない。(笑い)

D・そのほかの意見では……。▽文芸欄などが少ないときがある。作品の募集に工夫を。(48歳・農業)

▽各地区に伝わる「昔話し」が、民話」をのせてほしい。(41歳・公務員/39歳・主婦)

▽スポーツの試合の予定と結果(39歳・会社員) スポーツ関係の記事をふやしてほしい。(45歳・会社員/36歳・会社員)

E・文芸欄については「マンガクイズ、特に俳句、短歌など必要なし。(36歳・商業)」というのがある。

D・お年寄りから子供までという、広範囲の市民に関心をもって見てもらおうという広報の宿命みたいなものがある。ヤングのべ

ーは二十歳未満のページ、特に小中学生を中心に編集をしている

## 九月から内容改善

### 市民の協力に感謝

D・続けて意見をみると……  
▽経費のこともあるが、広報の表紙をカラーにすれば特に目にとまり読む人たちも多くなるのではないかと。(43歳・商業)

ので、大人にとってはものたりないところがあると思うんだ。  
D・続けて意見をみると……  
▽特定の地区や特定の内容の記事が多い。広く公平に記事にのせてください。(44歳・公務員)

社員)  
▽座談会の記事はあまり要約しないで、その人の意見をそのままのせてほしい。(39歳・三和)

C・広報に対する市民の意識調査をしたいと思っていたのが、二百号でやっと実現したわけで、この数字や意見を一つひとつ大切にしていきたいね。  
E・なお、細かい分析などをし、できれば九月ごろから内容の改善にとりかかりたいね。  
D・最後になつたけど、このアンケートのお世話をさせていただいた学校長や担任の先生、そして小学六年生やその父兄のみなさんにお礼をいいたい。どうもありがとうございました。

## 広報の広報



あなたと市政をむすぶ  
12/1 1974  
12/1 1974

日本広報協会主催の全国広報コンクールは、このほど行われ、広報なんこく「四十九年十二月一日号が都市部で入選しました。

## 全国広報コンクール

## 2度目の全国入賞

広報なんこくは県のコンクールで特選になり、全国審査に出品されてきたもので、全国入賞は一年に続いて二回目になります。入賞は市民のみなさんの指導、協力があつたからこそで、今回のアンケート調査をもとに、より親しまれる広報紙へ脱皮する決意です。すのでよろしくお願ひします。

見出しを含め)、そしてレイアウトの確かさ、美しさの三点がみこに結実していた例は都市部では広報なんこくであった。(三樹精吉)

「家庭」欄は「あなたがつくるページ」で、詩あり俳句あり、広報紙には珍しいクイズまでがついている。一家団らんへの配慮がうかがわれようというものである。ともかく、かゆいところに手の届くような心がけが感じられる紙面である。  
こうした点が、市民に親しまれる大きな要素となっていると思われ。評価されたのも、その点であろう。  
上の写真は49年度全国広報コンクールの都市部で入賞した49年12月1日号の広報なんこく表紙。



沢谷清一さん (田村)

### 何かの役に立てば

「以前から、新聞の切り抜きをするのが好きでして、若い頃はよく集めておいて、でも、年をとるとメカネがいろいろになり、近頃はようやくやるようになりました。沢谷さんは、親しみを覚える独特の笑顔で話してくれる。もともと取集を始めたのは、新聞配達という職業から来たもので、広報なんこくも、「何かの役に立つかも知れない」と、保存していたものだそうである。



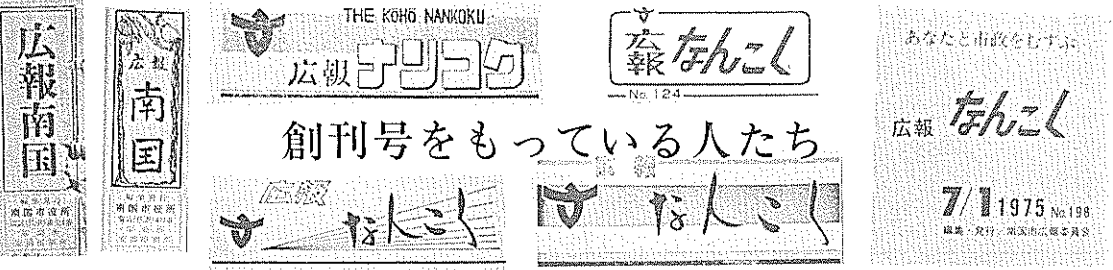
坂東 香さん (包末)

### 歴史をふりかえる

包末のお宅を尋ねて、まず通された部屋には、岩村村議会議長、助役、村長を歴任……という表彰状がかけられている。どんな人だろうか？と、少し緊張して待っていると、卓の下に足をたくわえた老人が笑顔で現われる。なかなか威風凛々なおじいさんである。七十八才にしては実に若い。

議員生活当時から、「職業がら広報紙を見る機会があり」集めたのがきっかけで、「昔の出来事を見るのが楽しみです。南国市の歴史をふり返ることは自分自身の教訓になる」と、自分に言い聞かせているようだった。

そもそも、以前の新聞紙型の広報紙から、今の週刊誌型のものに提案したのも、この坂東さん。広報紙の隠れた功労者でもある。



## 創刊号をもっている人たち



沢本起太子さん (里改田)

### 二十八年の「三和」も

「広報によって、市内のできごとや行ったことのない所を知ることができると、沢本さんは広報なんこくを語ってくれた。集めたときつかけは、「これといってない」そうだが、これまでに集めた広報は数多い。なかでも、一番古いのが、昭和二十八年九月二十日発行の「三和」二十四号。

思い出し話を聞くと、「子供の勉強の中で、広報で調べてやったら、詳しくできていると先生にほめられたことがある。」「市内のちよつとしたことを知るのに、集めていると大変に役に立ちます」と答えて返ってきた。

近頃は仕事も忙しく、広報を読むことも少なかったが、タバコの取り入れも終り、やっと一息ついたところ。また、これからも楽しく読ませてくれますよ」と、カメラに向かってくれた。



野口小雷さん (岡豊)

### 集め始めて三十年

「広報岡豊」という、やや茶色に変色した広報紙を前に、野口さんは、「広報紙を集めて三十年かかるといいますか」と、なつかしそに言う。今年七十三歳になるから、四十歳の頃に、「子供たちが大きくなって、昔の岡豊はどうだったのか、また私たちが過去をふり返ってみたいことがあるかも知れない」と、思っ保存をしたのが、今日に到ったのか。

「岡豊当時、近所の人が集ったことがあり、今の南国市よりは岡豊村の頃のほうが地域が狭かったせいか、記事も知っていることが多く、今ではなつかしく思い出される」そう話す。